

令和4年度 中学生の

# 税についての作文

優秀作品集



発行 中京納税貯蓄組合連合会  
中京税務署



## はじめに

中学生の「税についての作文」募集は、全国納税貯蓄組合連合会が、中学生の皆さんに税の意義や役割を正しく理解していただくことを目的として、昭和四十二年から実施しているもので、既に五十六回目を迎えております。また、平成二十年度からは、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁との共催により実施しています。

本年は、京都市中京区内の中学校六校から五百二十七編の応募をいただきました。

応募された中学生の皆さんのご努力と、深いご理解の下にご指導くださった各中学校の先生方、並びにご家族の皆様にご敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

私どもは、この作文募集事業が租税教育の推進に役立つことを念願し、引き続き、この事業の拡大と充実に努めてまいり所存であります。今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

この冊子は、多数の応募作品の中から、今回、京都市長賞、京都府納税貯蓄組合総連合会会長賞、中京税務署長賞、中京区長賞、近畿税理士会中京支部長賞、公益社団法人中京納税協会会長賞、中京青色申告会連合会会長賞及び中京納税貯蓄組合連合会会長賞に入選された作品を、編集刊行させていただきました。

一人でも多くの方々に、この作文集をご覧いただき、税に対する関心と理解を、なお一層深めていただければと願っております。

末筆ながら、ご後援いただきました、京都市中京区役所、近畿税理士会中京支部、公益社団法人中京納税協会及び中京青色申告会連合会に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

令和五年二月

中京納税貯蓄組合連合会長 宇津 克美

中京 税 務 署 長 植 木 伸 二

目次

【京都市長賞】	「いい国、日本」	京都市立京都御池中学校	九年	明 渚 彩	・ ・ ・	1
【京都府納税貯蓄組合総連合会会長賞】	「幸せを作る税」	京都市立西ノ京中学校	三年	深 海 凜	・ ・ ・	2
【中京税務署長賞】	「今、生きられている感謝」	京都市立北野中学校	三年	岡 野 結 希 奈	・ ・ ・	3
【中京区長賞】	「将来にわたり安心して暮せる社会」	京都市立京都御池中学校	九年	伊 藤 彩 名	・ ・ ・	4
	「放置自転車と税」	京都市立京都御池中学校	九年	福 西 美 紀	・ ・ ・	5
	「地球のための税」	京都市立中京中学校	三年	坂 田 心 莉 愛	・ ・ ・	6
【近畿税理士会中京支部長賞】	「たばことおつちゃんを作る未来への架け橋」	京都市立京都御池中学校	九年	渡 邊 一 規	・ ・ ・	7
【公益社団法人中京納税協定会会長賞】	「正職員になったマミーへ」	京都市立西ノ京中学校	三年	野 上 和 佳 子	・ ・ ・	8
【中京青色申告会連合会会長賞】	「税金がない生活」	京都市立西ノ京中学校	三年	河 原 光 翔	・ ・ ・	9
【中京納税貯蓄組合連合会会長賞】	「税金へ」	京都市立京都御池中学校	九年	高 石 佳 歩	・ ・ ・	10
	「税がつなぐ未来」	京都市立京都御池中学校	九年	高 垣 胡 春	・ ・ ・	11
	「消費税は悪いもの？」	京都市立中京中学校	三年	植 田 琴 子	・ ・ ・	12
	「税金増加のメリット」	京都市立西ノ京中学校	三年	西 川 未 唯	・ ・ ・	13
	「さまざまな税」	京都市立松原中学校	三年	藤 本 圭 太	・ ・ ・	14

「いい国、日本」

京都市立京都御池中学校

九年 明 渚彩

母は、海外に住んでいたこともあり、四十か国

以上もの国を旅行したようで、私に外国の話をよくしてくれる。外国の話をするときは、決まって、「日本は本当にいい国だよ。」というところから始まる。「どんなところがいい国なん。」という私の質問に、「治安はいいし、食べ物食べられないような人も、海外に比べたら本当に少ないし、子供達は学校にも通えるし、社会保障は充実しているし。」と次から次へと日本のいいところをあげていく。

母の話によると、ある国では、日常、ひったくりや犯罪が横行している。警察も、お気の毒だねという様子で、その程度ではあまり相手にしてくれない。貧困な国の子供は、家族の今日食べる物がなくて、物売りをする。もちろん、学校へは行けない。体が不自由な人は、仕事を得ることがで

きず、その保障もなく、貧困におちいつていき、物乞いをして生活をする。道路は舗装されておらず、道のところどころに大きな穴があいている。歩道と車道の区別もなく、信号のない道を、人、牛、犬、車、バイク、自転車、不規則に行き交っている。

少し聞いただけでも、想像を絶する話が出てくる。そんな国もあるんだなあ、確かに日本はいい国なのかもと思って、今まで聞いていたのだけでも、今回、税金の学習とつながった。日本はいい国なんだよ、という母の言葉の裏側に、税金が隠れていたことに気づかされた。

私達の安全を守る警察費、子供達が小・中学校に通えるための教育費、病気や、体が不自由な人への社会保障、道路などを整備する公共事業など、税金の用途は様々だが、人々の暮らしに大きく役立っている。

私が気づかないところで、私達の暮らしは税金に守られ、そして助けられているということがわかった。

私は、中学二年の時に、新型コロナウイルスに

感染した。家庭内感染により、私達一家は、食料などの買い出しに行けずに困っていた。その三日後、京都市から支援物資が届いたのだ。父も母も、「税金、ありがとう。」と心から感謝していた。「元気になったら、税金をたくさん払って、恩返しをしないとね。」と、話をしてきた出来事は、記憶に新しい。

中学生の私が払う税は、消費税くらいだが、父や母は自営業者なので、所得税や法人税なども納めている。この税金が、私達の生活に役立ち、また、困っている人のところへ届くことは、納める側も誇らしい限りだ。

日本は、税のしくみが整っていることで、全国民の命がしっかりと守られていることを、今回学んだ。税金を上手に使って、さらに住みやすい、いい国になってほしい。また、私も、消費税以外の税金を納める日が来たら、いい国をつくるお手伝いをして、という前向きな気持ちで、きちんと税金を納めていきたいと思う。

京都府納税貯蓄組合総合連合会会長賞

「幸せをつくる税」

京都市立西ノ京中学校

二年 深海 凜

私の母には障害をもっているAさんという友達がいいます。Aさんとは家族ぐるみで仲が良く、小さい頃から一緒に遊園地へ遊びに行きました。私が中学校に入学する時、Aさんは名前が入ったシャープペンをお祝いにプレゼントしてくれました。そのシャープペンは、Aさんが毎日クリーニング屋で働いて貯めたお金で買ってくれました。それを聞いて、とても嬉しかったです。

その後、母はAさんの一月分のお給料は三〇〇〇円程だと教えてくれました。それを知って私は、あのシャープペンは一本二〇〇〇円位の値段がするのにも、月三〇〇〇円程のお給料でAさんはどうやって生活しているのかという疑問を抱きました。母に聞いてみると、お給料の他に、国から年金をもらっていることを教えてもらいました。

私は障害のある人が国から受給される年金について、詳しく調べてみることにしました。

調べてみると、Aさんが受給しているのは障害基礎年金だということが分かりました。障害基礎年金は、受給する人が月にもらえる金額は、七十五万円で障害が重度であるほど金額は大きくなります。原則二〇歳から受給が可能です。そしてこの給付金は、日々私達が払っている税金が使われていることが分かりました。国の税金の歳出総額のうち、社会保障関係費には三十三%と高い割合を占めています。そのうち十三%が社会福祉費に使われています。

そういった生活扶助の制度があるおかげで、障害などのハンディキャップをもった人が安心して社会生活を送ることができています。

また年金を受給することで、金銭的なことだけでなく、気持ちに余裕が生まれるのではないかと考えました。「プレゼントを誰かにあげる」ということは、温かい気持ちになるし、相手が喜んでくれる顔を想像してワクワクしながら選んでくれたのだと思います。給料が少ない障害のある人であ

っても、「誰かに何かをしてあげたい」という、人として当たり前の感情をかたちにすることが、この制度のおかげで可能になります。

「誰かの為に何かをする」ということは、してもらった人はもちろん、してあげる人も幸せな気持ちになります。税金を納めることは、誰かを幸せにすることにつながっているのだと感じています。このことを忘れないで、私も働くようになったらきちんと税金を納めたいとおもいます。

中京税務署長賞

「今、生きられている感謝」

京都市立北野中学校

三年 岡野 結希奈

私は癲癇という病気を持っている。五歳の頃、症状がでて救急車で運ばれた。その時はまだ、税のおかげで救われたことを知らなかった。それを知ったのはこの作文を書くため、税について調べた時だ。そして、私は税があるから今生きられていることが分かった。感謝の気持ちも生まれ、病院の税のことをもっと詳しく知りたくなった。だから、いろいろと税について調べてみた。

病院や医療に使われている税は、主に国民健康保険と消費税がある。これら税の十一・九兆円もの額が医療に使われている。医療機関などで医療サービスを受けた時にでる医療費の7割から9割を税が負担しているそうだ。

もし、その税がなくなったら、どうなってしま

うのだろう。まず、救急車をすぐに呼ぶことができず、私は病院へ行けなかった。次に、薬の開発や新しい治療法の開発ができなくなり、治せるはずの病気も治せなくなる。そして、医療費が高額になり、病院に通えない人が多くなる。このように様々なことができなくなるだろう。そうすると、国民の人々が安全に暮らせなくなる。そんな世の中は嫌だ。そう考えると、税はとても大切で生活にかかせないと分かった。実際、私は税によって今ここに生きていられていると実感した。

みなさんは、世界には、医療費が税のおかげで無料になっている国があることを知っているだろうか。そこは、消費税率が二十五パーセントと世界で二番目に消費税が高いデンマークだ。日本では三年前に消費税が十パーセントになった。それに対して、高すぎると批判する人が多かった。しかし、デンマークでは人々がそのように反対する声を聞いたことがなく、国連の世界幸福度レポートによると、幸福度は世界で一番だそうだ。なぜなら、教育費や介護費なども無料だからだ。未来の心配をしなくてよく、お金のことも考えなく

てよいので、国民はリラックスして暮らせる。また、出産も無料なので、世界でも問題の少子高齢化の対策にもなっている。

このように、税が高いことはデメリットよりメリットの方が大きいと思う。日本もデンマークのように税を上げて医療費や教育費などにもっと多く使うのはどうだろうか。国民が安全に安心して暮らせるような国にすることが一番だと思う。この作文を通して、税は私たちの生活を守ってくれている第二の命だと思った。私たちの身近にある税は消費税しかないけど、それで救われる人があると思うと、消費税が高くなって、嫌だと思ふことより、私が消費税を払うことで人を救えているかもしれないというれしくなることの方が大きくなった。私と同じようにたくさんの人にこの気持ちを味わってほしい。今、私にできることは心を込めて税を払うこと。そして、たくさんの人に税について知ってもらおうことだ。これからも、税の大切さを未来へと伝えていきたい。

## 中京税務署長賞

「将来にわたり安心して暮らせる社会」

京都市立京都御池中学校

九年 伊藤 彩名

私達は生活の様々な場面で税金を負担している。両親の給料明細を見ると毎月の給与から所得税、住民税が差し引かれているし、健康保険、厚生年金保険の掛金も医療費・年金の財源になっているという点では広い意味で税金の一種と考えられる。また、商品を購入する際には消費税がかり、それ以外にも酒税、相続税、固定資産税など、耳にしたことがあるものだけでも数多くの税金がある。

今回「わたしたちの生活と税」を読んで私が驚いたのは、我が国が収入（税収）以上の支出を行い、不足分を借金（国債発行）で補い、その返済に必要な資金も新たな国債発行で調達する、自動車操業を行っているという実態についてである。

これが通常の会社や個人ならこのような自動車操業は長くは続かず、資金を貸してくれる相手が居なくなり、倒産・破産することになる。

対して国の場合、会社や個人と異なり倒産・破産することはまず考えられないため、必ず返済されることと信じて国債を購入する人は無くならず、自動車操業が長く続いてしまう。またこれは民主主義の欠点だと思うが、給付金、医療費の負担軽減など、「現在の」有権者を対象とした手厚い社会保障を掲げた政策が有権者に支持されやすいため、政府・政党も耳ざわりの良い政策ばかりを実施・主張し、支出は拡大する一方である。この状態が破綻し、日本が破産した際の影響は計り知れない。日本円に対する信用が無くなり円の価値が暴落し、海外から輸入ができなくなる、物価が上がる、金融機関が破綻する、企業が倒産する、失業率が跳ね上がる、役所が機能しなくなればごみ収集などの身近な公共サービスが受けられなくなることも考えられる。

これを防ぐため私達にできることは何か。それは、皆が長期的な視点を持ち、ある程度の負担を

受け入れることだと思う。まず、すでに多く負担をしている現役世代は、さらに多くの負担を受け入れるべきであろう。自分たちが享受する目先の社会保障だけではなく、その保障は借金に支えられたものであることを認識し、将来世代の負担が少なくなるよう、高齢者達もある程度の不便・負担は我慢し、自助努力で切り抜ける姿勢を持つべきだと考える。また、本当に困窮している人は保護して再起できるよう支援を行い、そこまででない人への保障は無くす、あるいは負担を増やすという調整が必要となる。例としては、困窮者の例外措置を設けた上での高齢者の医療費自己負担割合の引き上げ、年金支給率の引き下げ、生活保護受給基準の厳格化などが挙げられる。

持続可能な社会保障制度を構築して我が国の借金体質を改善し、私たちが負担、納付した税金を本当に必要な厳選した用途に使用していくことが、皆が将来にわたって安心して暮らしていくのに不可欠であると強く思う。



## 中京区長賞

### 「放置自転車と税」

京都市立京都御池中学校

九年 福西 美紀

ある日、母と買い物へ出掛けた時、放置自転車が撤去されているところを目撃した。その時、総合的な学習の時間に見た放置自転車の問題についての動画を思い出した。その動画の中で放置自転車関連費に税金が使われているということも話していた。それを知った時、正直、「えっそんなことっていいの？」と驚きと失望感を感じたのを覚えている。そこで、京都市では放置自転車関連にどれくらいの税金が使われているのか、どのような使い方をしているのかなどとても気になったので調べてみることにした。調べてみたがデータが少なかつたため京都市役所の中にある自転車政策推進室の方に直接お聞きすることにした。話をお聞きしてみると令和二年に撤去した放

置自転車数は一億九千四百六十六万台であることがわかった。また、その年度の放置自転車関連での支出は総額一億七千万円で内訳としては撤去費に一億一千五百万円、保管費に四千九百万円、保管整備費に六百万円が使われているということがわかった。そして、放置自転車をした人が引き取るために負担する二千三百円の手数料と取りにこられなかった放置自転車を売った収入が四千四百万円であることがわかった。この時、一億七千万円の支出と四千四百万円の収入の差額をみてみると一億二千六百万円の損失がでることがわかった。その穴埋めとして私達の税金が使われているのだ。またまた正直、一億円以上の税金が穴埋めに使われていることにとても驚いた。その事を母に伝えると、「えー本当！」ととても驚いていた。思ってもみなかったようだ。私もこれほどの税金を使っているとは思っていなかった。母と同じように放置自転車に多額の税金が使われていることを知らない人が多いのではないかと思った。だから市民にこの現実を知ってもらうことがとても大切だと感じた。

たった一人の「ちょっとだけ」、「つい」のせいで「ここにも自転車を置いていいんだ」と思う人が増え、たくさんさんの放置自転車が並ぶことになる。市役所の方々もポスターで訴えかけたり、呼び掛けをしたりして対策を行っているが大幅に減ることはない。「税金の無駄を無くせ」や「もつと他の所に税金を使え」と言っている人達がいるが、そんなことを言う前に私達市民が無駄に税金を使わせないようにするにはどうするべきか考えることが必要ではないだろうか。私達市民が起きている放置自転車に多額の税金が使われるべきではない。コロナ禍で困窮している人や公共の施設など、たくさんの方が笑顔になれる所に使うべきだと思う。一人一人が自分の行動を見直し、責任を持って行動していくことが税金の無駄を無くし社会をより良くしていく上で大切なのではないだろうか。

「地球のための税」

京都市立中京中学校

二年 坂田 心莉愛

税は私たちのためにある。毎日当たり前に通っている学校や、何も考えずに通る道路。考えれば何個でも思いつくことができる。それほど税は私たちの生活を豊かにし、影響を与えている。

しかし、より広い視野でこの世界に存在する全ての人の生活を豊かにしてくれているのは自然ではないかと私は考える。人間は自然の恵みを受け文明を築き科学を発展させてきた。であれば、税は人間のためだけにあるのが正しいのだろうか。そんな疑問を持ちながら税金について調べると次のものが見つかった。それが「環境税―地球温暖化対策のための税―」である。

この税は一九九〇年一月一日にフィンランドにおいて世界で初めて導入された炭素税が始まりである。炭素税は環境税のひとつであり、他に

も森林環境税などが存在する。日本では二〇一二年十月一日に導入された。地球温暖化を防ぐ手段として用いられた環境税は二酸化炭素の排出量に応じて課せられ、税収は森林の整備や企業の省エネ促進などに利用されている。

私はこの税はとても素晴らしいと考える。なぜなら環境税は自然を保護し持続可能な社会を作るからだ。つまり「地球のための税」でもあり、「未来の私たちのための税」でもあるのではないかと考える。

しかし、環境税には私が考えるに二つの問題点がある。

一つ目は知名度の低さである。私は小学校や中学校などでSDGSについて学習していたが、この作文を書くために税金を調べるまでは環境税を知る機会は無かっただろう。実際に親や友人に聞いてみたが、知らなかったり、名前だけ知っていたりするだけであった。

二つ目は税率の低さである。現在、スウェーデンの炭素税率は世界でも最も高く、一トンあたり一一四ユーロで日本円にすると約一四五〇〇円

の炭素税が課せられている。それに対して日本は一トン当たりの税金は二八九円とされている。環境税は税収で環境保全活動を行うだけではなく、環境に優しいものには減税をし、再生可能エネルギー導入の推進を行う効果がある。しかし税率が低いと、あまり誰も意識しておらず、効果があまり現れていないのが現状である。

このことから私は思い切った環境税の税率を上げることを提案する。環境税が上がればニュースや新聞で大々的に取り上げられ、高い税金を避けるために再生エネルギーをしようという意識が高まるのではないかと考えた。

今、世界には沢山の問題がある。その中の一つの問題が税で解決できるかもしれないなんてとても素晴らしいと思わないだろうか。

私は税もあまり払っておらず、選挙権も持っていないため、出来ることは少ないが、環境税をより多くの人に広めていきたい。

## 近畿税理士会中京支部長賞

「たばことおっちゃんが作る未来への架け橋」

京都市立京都御池中学校

九年 渡邊 一規

私は、今回この税の作文を書くにあたって色々な税について調べてみた。その中でひとつ目にとまった、聞いたことがなかった「たばこ税」というのがあった。自動車重量税や揮発油税、復興特別所得税など見るからに難しそうな税に比べてたばこは身近に存在するものであり、それでいてたばこ税に少し親近感が湧いた。

幼い頃から私は、たばこが苦手でもたばこを吸っている人の前を通る時は必死で息を止める程だ。この前、たばこが大好きな近所のおじさんに「たばこ買うときに一緒に払っている税金って何か分かる？」と聞いてみた。おじさんから返ってきた答えは「消費税じゃろ？」だった。「やっぱりそう答えちゃうよな。」となんとも言えない複雑な気持ちになってしまった。この経験から何

が分かるのか。そう、たばこを買っているのにも関わらず、たばこ税が存在しないと勘違いしている人がいるという実態だ。ここで気になるのが「たばこ税がどのような税なのか。」ということだ。たばこは食料品などのいわゆる生活必需品とは異なる嗜好品として位置づけられている。つまり、「嗜好品にお金が使えらる」状態にあるとして国や地方がたばこ購入者に「たばこ税」を課しているのだ。これによつてたばこには商品を購入した時に発生する消費税とたばこ税の二つの税が重複する。消費税しかかからない物に比べてたばこは税金が高いことが分かる。ところで、たばこ税の税収はどのようなことに使われているのだろうか。まず、税収だが国税と地方税のそれぞれにおいて、年間合計二兆円にまでのぼる。私はこの額をみたとき「たばこ買う人多すぎやろ」とつい口にしてしまった。ちなみに消費税の税収は約二十一兆円である。たばこ税収は消費税収の十分の一であるため、とても多くのたばこが販売されていることが推測できる。たばこは一箱あたり約三百五十七円の税金がかかっているので消費税の

何倍もの金額を支払っていることになる。次に、たばこ税収の使い道についてだが、これに関してははっきりと決まっているわけではないようだ。私は、教育や福祉、暮らしに関連することに使われていると考えている。世の中には数え切れないくらいたくさん商品がある。その中の一つである「たばこ」という小さな商品にかかる税金が私たちの暮らしをよりよくするプラスアルファの存在を担っているのはとても素敵なことだと思つた。

「おっちゃん。たばこ税が何か分かつた？」後日談になるが、近所のおじさんにたばこ税の話をしてあげた。残暑厳しい八月の中ごろ、おじさんは汗をたらして農作業をしている中、私の方を振り返つて「おう！」とほほえみながら元氣な返事をしてくれた。私たちが税金を支払う頃、少し変わった税金が未来を生きる人たちへの架け橋の支えになれば幸いだ。

公益社団法人中京納税協会会長賞

「正職員になったマミーへ」

京都市立西ノ京中学校

三年 野上 和佳子

マミー、正職員おめでとう。

さっそくだが、父の扶養から外れた母に私は「ふるさと納税」をおすすめしたい。

「ふるさと納税」とは、生まれた故郷や応援したい自治体に寄付をする制度だ。寄付金の使い道も指定できる。教育や環境、健康、福祉に関する事業など、様々な面に自分の意思を反映できる。また「納税」と呼ばれるだけあって、寄付額から2000円を引いた額が納税額と見なされる。さらに、寄付した地域の特産物などが「返礼品」としていただくことができる。例えばダイソンの掃除機（岐阜県七宗町）や肉、魚介（北海道等）などが貰える。つまり、たった2000円と税金の支払い相手を指名するだけで、欲しい物を手に入れることができる魅力的なシステムだ。

おそらく、ここまで読んで早速本制度の詳細や、お目当ての返礼品を検索しようとしてくれているだろう。大人気な制度であることも伝わったと思う。しかし、現在のこの制度が抱える問題点についても知ってもらいたい。それは、本来の「ふるさと納税」の主旨がズレてきている点だ。そもそも「ふるさと納税」は地方と大都市の格差是正や人口減少地域における地方創生を主目的として始まった。当初は「返礼品」の概念もなかった。その後地元企業や地方経済活性化を目的として「返礼品」が導入され、制度も普及した。一方で、返礼品を目的とした寄付が増えた。今では寄付が人気な返礼品を贈る一部の自治体に集中し、各自治体で返礼品の競争がおきてしまった。例えばAmazonギフトなどが過度な返礼品として挙げられる。地域貢献度が低い返礼品は本来の趣旨を満たしていない。

このように「お得な返礼品」ばかりが目立がちだが、最近では地域支援の内容を具体化することによって「返礼品なし」でも多くの寄付を集めることに成功した自治体もある。例えば、

火災で焼失してしまった首里城の再建支援プロジェクトは、わずか二週間ほどで5億を超える寄付があったそうだ。他にも災害支援や新型コロナウイルスなどの特別支援に使われている寄付が人気である。

「お得だからここにしよう。」

もちろんそのような考えで寄付することも悪くないと思う。しかし、形のある返礼品はなくても、本来の故郷でなくても寄付金で日本各地がパワーアップする。いつかその場所を訪れた時に「ふるさと」だと思えることができるなら……。新たなふるさとを得られること以上に素晴らしい。大きな返礼品はないと思うよ。

だから、母だけでなく、これからふるさと納税を始めようと思っている人にも、寄付先の自治体を支援したいという心構えを忘れないでほしい。ではマミーよ、どこに寄付する？

中京青色申告会連合会会長賞

「税金がない生活」

京都市立西ノ京中学校

三年 河原 光翔

最近T w i t t e rを見ていると税金についての不満をよく目にしていました。ニュースなどでもとりあげられ聞かない日はありません。僕自身も、税金は大切だと知っておきながら、「税金は何に使われているのだろう。」「税って必要なくてね。」「税金高すぎ」と思っていました。そんなある日、Y o u T u b eにてこんな動画を見つけました。「もし税金がなかったらどんな生活になるのか?」という動画です。その内容とは、まずある青年が風邪を引いたと思病院へ行きます。そこで診察を受けますが診察代1万円、薬代1万円という、普段あたりまえのように使っている施設がお金を沢山もつてい人しか使えないというものでした。

またある青年はナイフを持って暴れている男を見つけます。警察を呼びます。しかし警察を出動させるのにもお金がかかり、すぐに対応してくれません。

他には学校の机や椅子、ボール、本などは保護者の人が支払い、全学校「私立」になって学校に行ける子供は減少します。

そして日本は犯罪が増え、病院では治療を受けられない人が増え治安も悪くなり、不景気になってしまふのですと最後にこうまとめられています。

僕はこの動画を見たとき、とてもおどろきました。なぜなら税金がなければ教育は受けられないし、警察も動いてくれないと悪いことばかりだと思ったからです。

それに、もし税金がなければ京都府民である僕達も体験した、平成三十年六月十八日に起きた「大阪府北部地震」。

震災当初、当時小学生だった僕は、まだ学校に行く前だったのでとっさに、机の下に隠れ身を守りました。学校は臨時休校になり、田辺の祖母の

家に行くことになった僕は、行く途中テレビで、ブロック塀が倒壊し小学生児童が亡くなる、というのを見て非常に怖かったことを覚えています。そんな中近くの小学校や中学校で、ブロック塀が壊され違うものにかわったのも、税金のおかげなんだと思うと、改めて税の重要さを理解できました。

税というものは、なくてはならないものです。僕たちが物を買った時に払う税はどこかで役に立っています。そう思えばこれくらいなんてことはない、そうとは思いませんか?

もし税金がなければ、僕たちがあたり前のようになうけられていることが、あたり前のようにならなくなります。そんな「あたり前」を守っていくため、「税」についての理解をより深めて、しっかり納税することができる大人になりたいと思いました。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金へ」

京都市立京都御池中学校

九年 高石 佳歩

いつもいろんな所でお世話になってるよね。だから今日は感謝を伝えたくてこのお手紙を書いたの。

実はね、私夏休み中にコロナワクチンの3回目を接種しに行ったんだ。その時病院で打ってもらったんだけどお金を持つていくのを忘れてしまっていて。受付のお姉さんに事情を話したら「コロナワクチンは無料ですよ。」と答えてくださったの。でもインフルエンザワクチンはお金がかかるから何でコロナワクチンは無料なんだろうとずっと疑問に思ってた。「誰かが一括で支払っているのかな」とか「後々請求されるかも」とか色々考えながら調べてみたらまさかの事実を知ったよ。なんとコロナワクチンは全て公費で賄われて

いたんだってね。公費ということは一般的に「税金」で集めたお金のことから、つまりコロナワクチンは税金のおかげで入手できているということになる。税金がコロナ対策に使われているなんて一つも知らなかった。しかも、もし新型コロナウイルスに感染してしまった場合の医療費や検査が必要になった際のPCR検査も全て税金が負担してくれるんだってね。コロナの脅威から救うために手を差し伸べてくれてありがとう。

税金が私達を助けてくれることはコロナ関連だけじゃなくて、もっと身近な事から大きな事までたくさんあるよね。例えば普通に歩いているこの道、安全に行き来できるように整備された道路・橋とかの社会資本の整備、良い環境で受けられるような教育や安心して暮らせるための警察などの公共サービスの提供とかだよ。身近なことだからたくさん守ってくれてありがとう。

本当の事を言うと、今まであまり税金に良いイメージが無かったの。何を買っても消費税はつくし、海外から取りよせたら関税はつくし……。だけどこんな不満より何十、何百倍も私達は助け

てもらっていると知って一気に考えが改まったよ。目立たない所で支えてくれる大切な税金を知ったり触れたりしていく事が社会人になる大きな一歩だと思うの。だから私もどんどん税金の事を調べていこうと思う。いつも私達のためにたくさん助けてくれて本当にありがとう！

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税がつなぐ未来」

京都市立京都御池中学校

九年 高垣 胡春

選挙が近づくと、消費税についての問題がよくとり上げられている。多くの政治家が消費税をなくすべきだという声を上げており、それを聞いたことがある私も、税金についてあまり良いイメージを持っていなかった。今回、税の作文を書くにあたり、改めて税金について考えてみると、大人たちの話を聞いて、マイナスのイメージを持つてはいるが、それ以外に税金についてよく知らないことに気づいた。そんなある日の新聞に、「消費税、子どものために」という見出しを見つけた。読んでみると、今まで知らなかった税金について、自分とは無関係ではなく、ずいぶん身近なものに感じられるようになった。

平成のスタートと同時に導入された消費税。当

初三パーセントからスタートし、二〇一八年までは八パーセントだったものの、二〇一九年には食品以外は十パーセントまで増税された。これに対して不満を抱く声をよく聞くが、増えた税収の一部は、子どもや子育ての事業のために保育園が増やされたり、保育士をより多く配置して、子どもたちを手厚く世話したりすることに使われている。学童保育や、子どもを預かるなど有償ボランティアを運営するファミリー・サポートセンター事業の充実にもあてられている。これらのことを知っていくと、周りの人が顔をしかめて話す消費税は、私達国民が健康で文化的な生活を実現するにあたり、とても重要な役割を担っていることを理解でき、決してマイナスの気持ちでイヤイヤ納めるべきものではないと思いはじめた。また、税率が引き上げられたのには、少子高齢化という背景があり、働く世代の人口が減り、所得税などの税収増が見込めないため、全ての世代が平等に負担する消費税が当てられたという、社会全体の問題が深くかかわっていることも分かった。こうした、

正しい知識をきちんと知っていれば、今より少し

は前向きに納税について考えられるようになるのではないだろうか。税金というところ、「納めなければならぬ」というような、しぼりとられるイメージを抱いてしまいがちだが、その理由の一つには、その使い道について多くの人にとって支持しにくい、つまり、使い道がよく知られていないという現状があるのではないだろうか。

消費税をはじめとした多くの税金が、自分たちの生活をよりよくするために使われていると実感することができれば、今増税に顔をしかめている人達も、少しは前向きにとらえて納税しようと考え始めるように思う。

日本の将来を考えるにあたり、税制度はなくてはならないものである。私もあと何年かすると成人し、消費税だけではなく、様々な税金を納める立場となる。その時は周りのうわさなどにまどわされることのないよう、税制度についてよく学び、知識をしっかりとくわえて、気持ちよく納税することが出来る大人になりたい。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「消費税は悪いもの？」

京都市立中京中学校

二年 植田 琴子

税金ときいていいイメージをもつ中学生は少ないのではないだろうか。私も税金ときくと「無くなればいいのに」と思ってしまう。それは私たち中学生にとって身近な税金という消費税だからではないかと考える。

二〇二二年七月十日。全国で参議院選挙が行われた。京都では過去最多の九人という立候補者が混戦を繰り広げたが、公約として消費税減税を掲げている方が多かった。ニュースでも消費税に対する不満の声が取り上げられるのをよく見る。社会全体から不満や廃止を訴える声が多く出ているのに政府はなぜ消費税を払わせるのだろうか。普段目にするニュースや選挙のポスターなどから、私の消費税へのイメージはマイナスなものだった。

た。

今回税の作文を書くにあたって消費税についてくわしく調べてみることにした。そもそも消費税とは、売上にかかる消費税額から、仕入れにかかる消費税額を差し引いた差額を納付することとされている。製造業者・卸売業者・小売業者など事業者には課される消費税相当額は、コストとして販売価格に織り込まれ、最終的には消費者が負担する。千円の物を買うと百円の消費税がかかるのはそのためだ。人々から集められた消費税(税金)は主に社会保障費に使われる。医療、年金、介護など、私たちの生活を守るために欠かせないものだ。他にも地域の医療や警察、消防をはじめ、公的サービスに充てるために地方自治体に交付されたり、学校教育などさまざまな場所、用途で使われている。私が「無くなればいいのに」と思っていた税金は私たちにとって必要不可欠な「無くてはならないもの」だったのだ。

確かに消費税などの税金によって生活が苦しくなることもあると思う。ただ私たちが高い技術の医療を受けることができるのも、災害が起こった

たときに支援が受けられるのも、私たちが払った税金があるおかげだ。一〇パーセントの消費税がまわりまわって私たちのよりよい生活に還元され、助けられていることに初めて気付くことができたのだ。今までの私の税金の知識はメディアや誰かの訴えの一部を切りとった表面的で薄いものばかりだった。そんなペラペラの知識では物事の全てを理解することはできない。実際に調べてみることでそのものへの見方が百八十度変わったりする。そのことを忘れずに税との関わり方を改めたいと思う。



中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金増加のメリット」

京都市立西ノ京中学校

三年 西川 未唯

私が考える税金が増加した場合のメリットは、将来、私たちが高齢者となったときに病気にかかったり、施設で十分な介護を受けられたりすることです。今現在、将来への不安を抱えている人は多くいます。働くことが出来なくなったり、生活が出来なくなるのか、また、介護が必要になり施設に入ることになったとして費用はどうなるのか。

私は父と母と三人家族ですが、母は近くに住む自分のお父さんとお母さんの介護を五年間ずつととしています。母は美容師という仕事があるので、そばで見ていると仕事と介護の両立は大変そうです。私も出来るだけ、手伝うのですが、学校もあり、母にかかる負担はとても大きなものがあり

ます。私は、介護タクシーが安くなるなどの公的な介護サービスがもっと充実していたらいいのにと思っています。また、父や母が高齢者になって、介護が必要になったとき、子どもは私一人なので私一人で両親を支えることになります。仕事をしながら、一人でもどこまでできるか、とても不安です。

国や自治体の介護サービスは、私たちの税金で賄われています。税金が上がることで、そのサービスが今以上に充実するのであればいいのですが、他のことに使われるのであれば、税金を上げることには反対しなければなりません。そこで、私は、税金がいまどうように使われているのかを調べてみました。

税金の使われ方は大きく、社会保障関係費や公共事業関係費に使われています。また、私達の教育に必要な教科書などの教育費にも使われており、私達の生活を身近な場面から支えている。

このような使い方をされている一方で、調べてみると、コロナ対策として税金がむだに使われていることが分かった。例えば、アベノマスクであ

る。あまったマスクの保管に約六億円、検品作業に二十一億円もかかったということだ。しかも、使われていないマスクが八千二百万枚もまだあるらしい。これだけのむだなお金があれば、他にコロナの対策ができたのではないかと考える。私は、私達のくらしが増税によって、少しでも良くなるのなら、税金を今以上増やすことは仕方がないことだと思う。また、増税によって税金を納めるのが難しくなることもあると思う。しかし、今よりも良い仕事環境や生活で過ごせることや、税金免除などのシステムを確立させることで、過ごしやすいものなら増税しても良いと思う。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「さまざまな税」

京都市立松原中学校

二年 藤本 圭太

「租・調・庸」歴史の授業で学んだ税制度。古代国家が形成された8世紀初頭には制度化されていた。朝廷が律令に基づき「戸籍」を作り人々の年齢や性別を把握。今でいう、マイナンバー制度の様なもの。「納税」はとられるというイメージがあるが、「税」は日々の暮らしに困窮する一般庶民を助け支えた。日照りや水害、疫病等人々の貧富の差が大きくなった。誰もが幸せに暮らせる。そして現在。税の種類、使われ方、僕の暮らしにどう還元されているのかに興味を持ち「税」をネット検索した。財務省のサイトにて「税金には（中略）国税には、所得税、法人税、相続税、贈与税、消費税（中略）地方税には、住民税、事業税、固定資産税（中略）」との記載。沢山の税があ

る。「古代国家の税」同様に、現在も税で公共の施設等が運営され生活に関わる。まずは僕の通う中学校。中学校も公共の施設だ。他には、図書館、市役所や区役所交番。ゴミ収集・処理にも税が使われているのだと思っていた。古代律令国家と同様に、個では対応出来ない問題は公共の施設や団体により仕組みが作られ支えられる。施設を作つて動かすだけではなく、それを考え提案し、実際に稼働させ人々の暮らしをより良くさせる為にも、勿論お金が必要で税が利用される。「税のない国ってあるんだろうか？」との疑問が湧いた。調べると「ナウル共和国」という国が出た。南太平洋に浮かぶ小さな島国で人口は1万人程。リン鉱石の採掘によつて栄えた為、納税義務なし。医療、教育は無料、結婚した際には新居をプレゼント、全年齢層に年金配布など、まさに楽園。しかし、21世紀に入るとリン鉱石が底をつき経済が崩壊した。国民の失業率は90%を超え現在は近隣先進国からの援助に依存。この例は極端だが、「税制度」の必要を実感できる内容だ。

良い暮らしをする為、しっかりと目標を持ち収入を得て税を納める。自分だけでなく地域や国に住む多くの人が、困る事なくそして目標や生きがいを持って暮らせる様に、意識を持って納税できる大人になりたい。

僕自身も将来は働き家族を持つだろう。気持ち



中学生の「税についての作文」応募状況（中京税務署管内）

（単位：人、編、％）

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
生徒数	2,436	2,474	2,413	2,446	2,424
応募数	683	561	67	460	527
応募割合	28.0	22.7	2.8	18.8	21.7

【注意事項】

今後実施される中学生の「税についての作文」募集に当たり、中学生の皆さんが応募作品を作成される際、この作品集に収録されている文章を、そのまま引用することはできませんので、ご注意ください。



**【発行元等】**

令和5年2月発行

**【発行者】** 中京納税貯蓄組合連合会

中 京 税 務 署

事務局 京都市中京区西ノ京樋口町1 4 番地 1

公益社団法人 中京納税協会内

Tel. 075-823-7755

**【注釈文】**

この作品集に掲載された作品を他の雑誌・広報誌などに転載する場合は、あらかじめ作者及び中京納税貯蓄組合連合会並びに中京税務署の承諾が必要です。